国語

ここから、国語についても勉強計画を立てて着実に実行しよう！

Ⅰ．全体講評

「第一回4月高2レベルマーク模試」の平均点は、九八・六点（二〇〇点満点）であった。本格的な受験に向けての模擬試験を受験したのが初めてという諸君も多いかもしれない。今回の結果に関わらず、二年の初めからこういった模試を受け始める人は、受験生になるころは、成績が大きく伸びていることが多い。ぜひ、この模試を契機として、ここから頑張っていってもらいたい。

さて、今回の結果を分野別にみると、現代文と比べて古典の分野の点数が低かった。高一生なら今の時期、点数が取れなくても仕方がない面はあるが、高二生の場合は、少なくとも高校で古典の勉強を一年間してきているはずである。にも関わらず、漢文にいたっては三割しか得点できていない。

漢文は、勉強すれば、その成果が出やすい分野であり、勉強しなければ、ほとんど得点できない分野でもある。ぜひ、ここから、漢文の勉強をしっかりと進めよう。まずは、**句法と重要漢字を身につけること**が最重要だ。**これをせずに、いくら問題を解いても点数は上がらない**。覚えるべき量はそれほど多くはないので、集中的に一度ひととおり覚えるようにしよう。

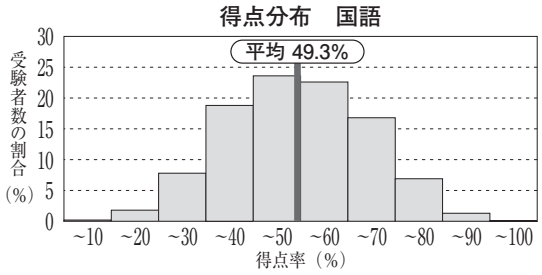
古文は今回、五割程度の出来で、初回としてはまずまずの結果であった。ただし、**問１**(ウ)の「やがて」という重要古語を理解している人が少ないなど、まだ、基本的な知識に不備がある。こういうところが伸ばせれば更に得点がアップする。ぜひ、頑張ってもらいたい。古文は、**読解のための文法**（例えば、助動詞の知識や敬語、「こういう形だったらこう訳す」というきまり　など）と**重要古語を身につけること**が大切である。漢文よりも身につけるべき量も多く、また、読解する文章も難しいので、それなりに時間はかかるので、この時期から計画的に進めていこう。

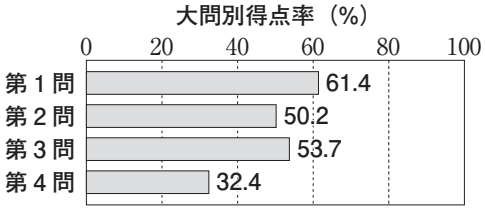
現代文分野は、評論が六割、小説が五割の出来で、初回としてはまずまずであったが、まだまだ伸ばせる余地は大いにある。

評論は、書かれている内容は小説のような日常の世界ではないので、難しく思えるが、実は、読解の練習を重ねていくと、安定して高得点をとりやすい。**評論は筆者が、ある自分の言いたいことを分かってもらおうとして論理的に説明しているので、その論理をおさえて読みさえすれば、言いたいことは摑みやすい**。なんとなく、読んでわかったり分からなかったりしているのではいけない。評論を論理的に読み解く方法を身につけよう。

小説は、文章によってできたりできなかったりのブレが大きい人がいるが、そういう人は国語として、小説を読解することができていない。小説の読解の仕方についても、ぜひ、はやめに身につけるようにしよう。

なお、評論も小説も読解法を覚えただけでは得点は上がらない。読解法を使って、多くの問題を解き、訓練して身につけ、得点に結びつくまでに





時間はかかる。一回に多くの時間を使う必要はないが、この時期から計画的に勉強をしていくようにしよう。

まだ高二生になったばかりで、まだ二年間あると思っている諸君もいるかと思うが、高三生の秋以降は、二次私大レベルの過去問対策に入るとすれば、高三の夏までに、センター試験のレベルはクリアしなければならない。つまり、あと数か月後、夏休みを過ぎたら、センター試験のレベルを完成させるまでに一年を切ることになるのだ。ぜひ、受験に向けた本格的な勉強の計画を立て、着実に実行していこう！

Ⅱ　大問別分析

第1問（評論）
評論を得点源にしようという姿勢を持ち続けていこう！

今回の模試は高二生だけを対象としたものであり、**第1問**については、得点率が六一・四％という高い値で、満足すべきレベルに達している。話題が日頃の勉強に関わるものだったからかもしれない。ちなみに今年のセンター試験本番の国語の平均点は五一・二％だから、古文や漢文などといったジャンルの違いを考慮しなければ一〇％アップしていることになる。言い換えれば、すべての問題を評論のようにこなせれば、上位成績者のなかに食い込められるということだ。もちろん、現代文を得点源にするという姿勢を崩さずに持続していくことも大切だ。

まず、**問1**では、㈼の「信奉」が他の漢字よりもやや正答率が低く、六〇％台だった以外は高い正答率を示している。

問2、**問4**はそれぞれ正答率六六・〇％、六七・〇％で、好調な結果である。いくぶん、ヒネリのきいた設問だが、十分な対応力を発揮している。

問3の対話形式における空欄補充の設問はまだ十分慣れていないせいか、正答率は五七・一％とやや低い成績である。①を選んだ者が多くいたが、「世間の傾向」について鷗外は特に発言しているわけではない。

問5は、選択肢が二つの文章からなる三行選択肢のもので、近年のセンター試験では必ず出題される。焦らずにしっかり各選択肢の違いを吟味して解きたい。結果は正答率四八・五％と低く、誤答では①・④が多い。「役に立たないこと」「なぜという問いに答えがないこと」「〈謎〉ということ」「『自己目的』ということ」それぞれの意味の違いをしっかり把握して対比的に考えていけば、自然に正解は浮かんでくるはずだ。また、本文に十分な根拠がないものは除外して考えていきたい。

問6は全体の要旨に関わる設問だが、ⅰ・ⅱともに四〇％台の正答率で、本文全体を俯瞰する力がもう一歩というところである。

ⅰでは③とした者が多い。「なぜ酒を飲むのか」は身近な話題ではないと考えたのかもしれないが、それは主観的な感想に過ぎない。ⅱでは②への誤答が目立った。「両者の矛盾を解決するために～提案が新たに加えられている」と③の「一面の意義にも配慮している」のどちらがより正確かを判断してほしかった。

第2問（小説）
登場人物の心情に注目しつつ、ストーリーの正確な展開を把握しよう！

今回の**第2問**小説問題は、登場人物の複雑な背景や微妙な心理が描かれ、ストーリーの奥行きを感じさせるものだったが、得点率が五〇・二％だったということでは少々難しめの問題だったと言える。登場人物の心情把握において、本文の細かな表現を見逃さず、選択肢の言葉と一致するかどうかを正確に見極めていく眼が要求された問題だった。

言葉の意味を問う**問1**の問題では、**ア**・**ウ**の正答率が高く八割前後あったが、**イ**の「冷水を浴びせる」については四割に達せず、言葉自体を知らなかったか、あるいは間違った意味で覚えていた人が多かったと思われる。これを機に正確に意味を覚えておこう。

問2以降の本文読解の問題では、正答率が六割を越えたという設問はなく、**問4**の五六・〇％が一番高かった。逆に最も低かったのは**問5**の三一・四％だったが、この設問には確かに誤答しやすい要素はあったものの、冷静に読むなら「それは違う」という部分があり、判断の的確さが要求されていた。間違えた人は、どこが違っていたか、解説で確認しておくこと。次に正答率が低かったのは**問2**で、四六・六％だった。半数に近

い人が正解していたということではあるが、紛らわしい選択肢が他に二つあり、最後まで答えを絞りきれなかった人が多かったと思われる。**問６**の表現と構成に関する問題では、**不適当なものを二つ選ぶ**問題であったが、二つとも選べた割合は五割に達していなかった。表現技巧や文法的なことを問う問題でもあり、正解した人はそうした知識を持ち合わせていたということでは評価できるだろう。不正解者はこれを機にそうした知識もストックしてほしい。また、選択肢⑥は全体構成を説明しているが、これを誤肢とした人が三七・四％もいたが、この文章では場面転換ははっきりしている。全体を把握することを意識して問題文を読むようにしたい。

今回の問題は少々難しいと思った人も多いだろうが、センター試験でもこのような問題も多いので、これを実力アップをするための踏み台としていってほしい。

第３問（古文）

本心と口実、夢と現実、行動と理由を整理しよう！

『沙石集』から、熊野の僧が夢の示現によって恋心を断つ説話からの出題で、高二生全体の得点率は五三・七％であった。

問１の語句の解釈の問題では、(ア)は**重要古語**「いつく」、(イ)は重要古語「忍び難し」「覚ゆ」の意味を問う問題で、どちらも六割前後の正答率であったが、(ウ)は、重要古語ではないものの、やや**慣用句**的に使う「不孝す」の意味がわからなかったのか、「やがて」の意としては正しい②・③にも誤答が多く、正答率は四割であった。

問２は**「に」の識別**で、正答率は六割近かった。誤答で多かったのは接続助詞のｄで、断定とした誤答③が二割程度あった。断定との区別は形や意味から判断できるので解説のまとめをしっかり復習しておこう。

問３は僧が地頭の娘目当てに高滝を訪れようとした**本心**を読み取る問題で、五割を超えた正答率であった。一方で誤答③は娘への恋心について一切触れられていない表向きの**口実**になっており、三割弱の誤答があった。出題の求める解答はどちらなのか、しっかりと設問も読み取ろう。

問４は夢の**示現**が意味することを読み取る問題で、僧に対する示現であることは七割を超えて読解できていたが、息子を元服させる場所が問題であるとした誤答④に二割近く解答していた。娘への想いを断って熊野へ帰ったことから考えても、**人生のはかなさを説く**内容でなくてはならない。

問５は**荘子の「胡蝶の夢」**の説話と本話の共通点を読み取る問題で、約四割の正答率であった。**現実は夢と区別がつかないくらいはかないものであるという**④が正答であるが、現実と区別がつかないくらいなので注意が必要とした⑤への誤答が二割近かった。はかないからこそ仏道への専心が必要なのである。

問６の内容合致問題は六割の正答率で、よくできていた。**どこまでが夢の内容なのか、夢から覚めてした行動は何か**、区別して捉えられたかがポイントである。誤答は、高滝の地頭の娘が毎年熊野に参拝しており、鎌倉に立ち寄ったのは僧ではなく娘であるとした主語違いの①がやや多かった。

第４問（漢文）

語彙・句法ともに学習をスタートさせ、得点源を増やそう！

袜宏『竹窓随筆』から、閻魔王と死者の、死の予告についての問答の文から出題され、得点率は三二・四％と大苦戦であった。

問１は漢字の読み方の問題で、(ア)は**「数（しばしばせり）」**で、(イ)は**「漸（やうやく）」**で、どちらも読みとしては重要な語であったが、正答率は両方とも二割を切ってしまった。漢文の語彙力は句形の学習とともにどうしても必要になってくるので、一通りまとまった学習をしておこう。

問２は、語の意味と熟語の問題で、(1)は重要語**「見ゆ（まみゆ）」**で、(2)は文脈から**「鋭利」**の意味を読み取るが、どちらも五割を超えてよくできていた。特に(1)は読み方や謙譲語であることも重要なので、あわせて覚えておきたい。

問３は、死者が閻王に対して何を言っているのか読み取る問題で、**「答（とがむ）」**とあることから、責めていることは読み取れていたようで、解答は①・③・⑤に分散した。**「信」**がこの場合手紙ではなく**知らせ**であり、これを「手紙」「約束」とした①・⑤への誤答が合計三割弱あった。正答率は約五割であった。

問４は、**老年の死者**への死の予告とは異なる、**若い死者への死の予告**について続けて述べる筆者

の意図を読み取る。これは正答率が二割を切り、誤答も分散した。誤答は③に集中し、死者がいまさら死に気付いても遅すぎることを述べたいのだと考えた解答が、正答率を越えて三割あった。若者への教えについて触れられていない選択肢は少なくとも選んではいけない。

問5は返り点の付け方の問題で、「十歳と孩提乳哺とに及ばず」のように十歳の子と、幼児と赤ん坊の**両方に「不及」がかかっている**ことが読めたか否か、また文末は**対句を参考に読めたかどうか**がポイントであった。正答率は二割を切っており、書き下しの問題としては苦しい結果であった。参考となる文が前後にないか確かめるようにしよう。

問6は本文の趣旨説明の問題で、**死は知らせがくるものではなく、常に意識した上で生きていくべきだ**と説いたという④が正解。正答率は三割にとどまった。誤答は、予兆は必ずあるので、敏感に察知して、徐々に心の整理をするべきだとした③が多く二割を超えた。死は予告されるものではないが意識するべきだ、と言っているので、予告を敏感に察知すべしは本文に合致しない。

Ⅲ．学習アドバイス

◆基礎知識を充実させるとともに、正しい読解法を身につけることに努めよう！

「教科書レベル」と言われるセンター試験だが、国語に関しては決して易しいものではない。高得点を取るためには二年生のうちから国語の勉強時間をしっかりと確保することが必要である。

現代文に関しては、**語彙力の充実をはかる**とともに、読解問題は**文中に解答の根拠を探し、それをもとに答を選ぶ、という基本ルールを徹底する**こと。「なんとなく」で答えを選んでいるのでは、いつまでもたっても現代文の力はつかない。

古文・漢文はとにかく知識が身についていなければ、読解力がつくはずもない。古文単語・文法・漢文の訓読・句法といった**知識を習得せずに、古典の成績が上がるなどといったことは絶対にない**。身につけたこれらの**知識を総動員して**古文・漢文を読解すること、この積み重ねだけが古文の力をつけるということを肝に銘じて学習を積み重ねてほしい。